

学校園だより

良樹細根

丹波篠山市立
たまみず幼稚園
城北畑小学校
6月の7

学校再開3週間が経過しました。4年生が感想を次のように書いています。

□学校が始まって、ぼくは四年生になりました。教室が二階になって教室をまちがえそうになりました。たんにんの先生が雪岡先生になって、ぼくは少しきんちょうしました。でも、やさしそうだと思います。四年生の勉強は少しむずかしかったです。でも、久しぶりに学校に来ることができて、うれしかったです。



□ぼくは、学校が始まってうれしいです。理由は、ずっとぼくは友達と遊べなかつたりひまなことがあって、ストレスがたまっていました。そして、最初に学校が始まった六月一日にストレスがすぐになおりました。勉強も楽しいし、特に楽しいのは二十分休みに思いっきり遊ぶことです。ぼくも、第二波が来るかもしれないから、しっかりと予ぼうをしたいです。本当に学校が始まってうれしかったです。

□わたしは、学校が始まってとてもよかったなと思いました。理由は、三ヶ月ぐらいコロナで休校だったからです。でも、六月から学校に行けてよかったです。雪岡先生と一回勉強して、学校がもっと好きになりました。わたしは、コロナウイルスに負けずに学校に行きたいです。



□ぼくは、学校が始まってとてもうれしいです。なぜかという、みんなと会えてみんなと遊べるからです。お兄ちゃんと遊んでも楽しくないけど、みんなと遊んだらとっても楽しいからです。早くコロナが終わって、マスクをはずして、みんなといっぱいしゃべりたいです。

□学校がコロナウイルスで三ヶ月ずっとステイホームをしていました。でも、ステイホームも終わり、すっかりふつうの日じょう生活が始まりました。五月の三十一日に休みが終わって、なまけていたけど、学校に行くしたくをするのを早くして、ねているときも早く学校に行きたい、と書いていました。今は最高です。

□わたしは、学校が始まってとてもうれしいです。でも、ひさしぶりに水泳と学校の両方になったので体がとてもつかれています。でも、みんなと遊んだり、話したり、勉強したりして、毎日楽しいです。四年生になって、さか上がりができたり、二重とびが六回できたりして、うれしいです。四年生の間に、前回りおりができるようにがんばりたいです。

□ぼくは、四年生になって漢字がすぐに覚えられるようになりました、三年生のころは全然覚えられなかったのに、四年生になってすぐに覚えられるようになって、とてもうれしかったし、いろんなことを覚えられるようになって集中力が高くなった気がします。分度器も使えるようになったし、勉強が楽しく感じます。学校に行けてとてもうれしかったです。

※上記以外でも「・・・学校は、すごいところなんだなあ、と思いました。」と書いている児童もいました。4年生も、学校が始まって本当に良かったと、みんな書いていました。学校再開三週間が経過しましたが、私たち教職員は、子どもたちのこれらの思いをしか

り受け止めながら、元気と笑顔を提供していきます。

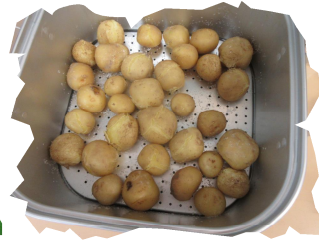


園舎では・・・

夏本番を迎え、ゴーヤ、ツルムラサキ、山の芋、つるありインゲンなどの葉やつるがぐんぐんと伸びています。葉が茂り

ゴーヤが沢山できると、ネットが切れないか心配しているほどです。突っ張りが必要になってくるかもしれません……。送迎の時、ツルムラサキの葉っぱを時折持って帰っていただくのですが、保護者の方には好評の様です。野菜を食べなかった子が

野菜が食べられるようになった、という嬉しいお便りもいただきました。四季折々の野菜の味を感じながら、「もりもり食べる子、食べてたくさん遊ぶ子」をつくっていきます！



【追加】登園後は、右手にハサミを持ってインゲンを収穫しています。葉っぱが茂る中、目を上下左右しながら適当な大きさのものを判断します。最近は日課になっています。先日ジャガイモを掘りました。日陰で何日か保管しておいたものを約四十分ぐらい蒸しました。お塩を軽くパラパラとふりかけて食しました。遊んだ後、休憩を兼ねて食べてみましたが、これがとても好評でした。19日（金）も食べました！

給食後の掃除も始まりました。5年生が「こうやってはくよ。見ててね。同じようにしてね。」と、園児が同じようにしてくれているのか、後ろをチラチラ見ながら見本を見せてくれるんです。優しい5年生です。ありがたいです！園の職員も5年生の心遣いに感心していました。

低学年親子感想文より

道徳の本を親子で読んで感想を話し合う、低学年編です。

「あいさつ月間」を読んで（2年）

○わたしは、気もちのいいあいさつをかんがえました。友だちに大きな声で、にこっとわらってあいさつしてほしいと思ったので、これからあいさつする時は、大きな声と笑顔であいさつしたいです。

●車を運転している時に横断歩道で止まると、篠山の小学校の子どもたちは、この本の男の子の様に頭を下げ、右手をあげ、渡りきると今度は皆で頭を下げあいさつをしてくれます。子どもたちから大切な事を教わった気がして、未来ある子どもたちの為に大人たちは更に何をしてあげられるのだろうか、何を残してあげられるのだろうか、今一度考えなければいけません。このあいさつの様に、幸せの連鎖を増やしていける行動をしていきたいです。（保護者）

「ゆめをもって」を読んで（1年）

○ゆめは、ねむっているときにみるゆめだとおもっていた。でも、ほんをよんだら、しょうらいなりたいゆめのことでした。わたしのゆめは、たいいくのせんせいになりたいから、まいにち、せんせいになれるようにがんばる。

●「夢」というのは、どういうことかということ子どもと一緒に何度も繰り返し読みました。子どもなりの「夢」をこのお話を通して知ることができ、将来その夢を叶える為にはどうすべきかを教わる大切な時間になりました。（保護者）※よりよい生き方を親子で話し合う良い機会です。学校として、今後もこの取組を継続していきます。